

3.除草体系について

① シンジェンタジャパン

農林水産省 米輸出促進に向けた、「未来の米づくり」対話（第2回）
- 乾田直播・節水灌漑（マイコスDDSR）による「超低コスト・低メタン輸出米」の可能性 -

syngenta

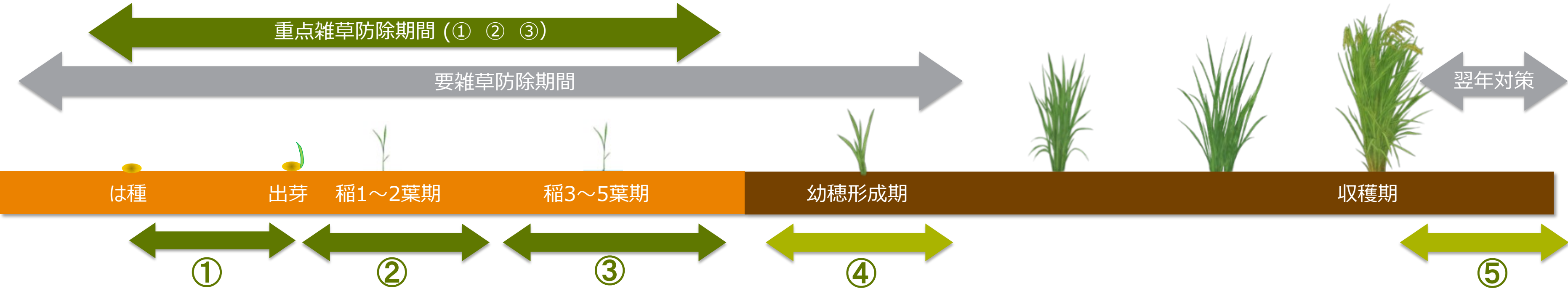
節水型乾田直播栽培における除草体系と現状

2025年1月15日

シンジェンタジャパン株式会社

節水型乾田直播栽培における除草体系モデル

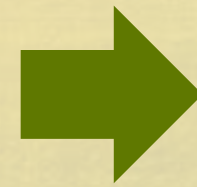
(節水条件下での直播水稻栽培に対して有効な農薬を用いた除草体系)



処理時期 (目安日数)	①播種後～ 出芽前		②稲 1 ～2葉期 (播種20日後)	③稲3～5葉期 (播種40日後)	④幼穂形成期 (播種60日後)	⑤稲刈取後
有効な 除草剤の例	グリホサート カリウム塩	ブタクロール 乳剤	ビスピリバックナトリウム 塩液剤	フロルピラウキシフェンベンジ ル乳剤 または ベンタゾン・メタミホップ液剤	フロルピラウキシフェンベンジ ル乳剤 または ベンタゾン・メタミホップ液剤	ジクワット・パラコート液剤
防除のねらい	既発生雑草の 枯殺	土壌処理で 発生抑制	ビエ・一年生広葉雑草 茎葉処理	ビエ・一年生広葉雑草 茎葉処理	取りこぼした際の追加 茎葉処理	翌年のイネ科雑草の発生 を抑制
使用の ポイント	ブタクロール液剤：は種後湿潤状態が続くと苗立不良のおそれがある 覆土が極端に浅い条件で使用しない		散布後 2 日間は入水をしない（効果低下のおそれ） 幼穂形成期以降は使用しない	ベンタゾン・メタミホップ液剤：散布後少なくとも3日間（浅水処理は5日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない フロルピラウキシフェンベンジル乳剤： 土壌水分が少ないと効果が十分に発揮されないことがある。乾田または落水状態で散布する際は早め（3日以内）に入水してください 共通：散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水、かけ流しはしない		稲刈取後・耕起前の散布でイネ科雑草種子に付着させることで、発芽後に種子が枯死し、翌年以降の雑草発生密度を低減する 散布水量が多い（150L/10a）方が効果的

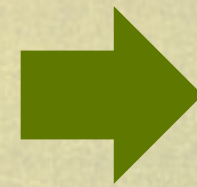
節水型直播水稻 現状の課題と想定される対策

✓ 出芽後の茎葉処理除草のタイミング
(早い=回数増 遅い=枯れない)



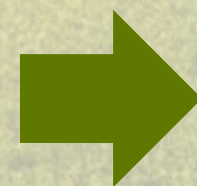
雑草予測AI・適期散布サービスの活用

✓ 残効の長い土壌処理剤が無い
(⇒除草回数・コストの増加)



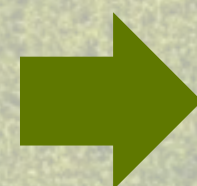
有効な土壌処理除草剤の迅速な
開発と登録

✓ メヒシバ等、畑地イネ科雑草の増加
(残存種子が翌年以降のシードバンクに)



秋冬期稲刈取り後対策、冬春作物・
湛水直播水稻とのローテーション

✓ 漏生イネ(品種コンタミ)・雑草イネ(赤米)
(連作での増加懸念)



品種・種子への除草耐性付与など
海外技術の導入